

出願資格と入学者選抜試験

※詳しい内容は「令和5年度 鳥取看護大学大学院
入学者選抜・学生募集要項」をご覧ください。

出願資格

4年制大学の卒業生、短期大学や専修学校の卒業生で一定の要件*を満たす者 等
*上記一定の要件を満たす者に関しては、入学者選抜・学生募集要項をご覧ください

入学者選抜試験日程

「一般選抜」および「社会人選抜」

	出願期間	試験日	合格発表	入学手続期間
第1回	10月27日(木) ～ 11月4日(金)	11月13日(日)	12月1日(木)	12月2日(金) ～ 12月9日(金)【必着】
第2回	2月2日(木) ～ 2月13日(月)	2月19日(日)	2月25日(土)	2月26日(日) ～ 3月10日(金)【必着】

※出願前に必ず「出願前相談」を行ってください。
※第1回の入学者選抜試験において定員を満たした場合、第2回の入学者選抜試験を実施しないことがあります。

社会人入学生への配慮

長期履修制度

社会人学生（現役看護職の方など）は、研究活動・学修活動の時間が限られ、年間に修得できる単位数にも限りがあることが想定されます。そのような方は、「長期履修制度」を活用することができます。「長期履修制度」とは標準修業年限2年のところを、3年または4年と予め設定して計画的に履修することができる制度です。
なお、授業料については、標準の修業年限（2年）に支払うべき授業料総額を、あらかじめ設定した修業年限（3年または4年）で分割して支払うことが可能です。

夜間開講

授業は、履修する学生の勤務状況等を考慮し、平日の夜間及び土曜日開講、集中講義などを組み入れ学修しやすいよう配慮した時間割を設定します。

学費（初年度）

90万円 （入学金20万円、授業料60万円、教育・設備充実費10万円）

奨学金制度

下記の奨学金をはじめ、各都道府県および諸団体法人で運営している奨学金が利用できます。

名 称	金 額	種 類
鳥取県看護職員修学資金	月額 8.3万円	貸与 ※鳥取県内就業5年経過後、全額免除
日本学生支援機構奨学金	月額 〈第1種〉5万円、8.8万円 〈第2種〉5万円～15万円	貸与 〈第1種〉無利子 〈第2種〉有利子

【お問い合わせ先】

学校法人藤田学院 **鳥取看護大学 入試広報課** TEL:0858-26-9171 (直通)

HP <https://www.tcn.ac.jp/> E-mail nyushi1@tcn.ac.jp
〒682-8555 鳥取県倉吉市福庭854 TEL.0858-27-2800(代表) FAX.0858-27-2803

鳥取看護大学

検索



鳥取看護大学
大学院

Tottori College of Nursing Graduate School

鳥取看護大学 大学院

看護学研究科
看護学専攻（修士課程）

GUIDE BOOK 2023

令和5年度入学者用



教育理念

本学は、地域に根ざしたヒューマンケアを実現するために、以下の3つの人材育成を教育の基本理念として掲げます。

- 専門的な基礎知識と技能を持ち、豊かな人間性で患者に寄り添う人材**
感性豊かなコミュニケーション力、人間に対する深い洞察力、社会的倫理観、そして人に寄り添う温かい感性を持つ人材を育成します。
- 地域医療・在宅医療を支える人材**
地元山陰の地域特性を踏まえて、高度医療はもちろんのこと、地域医療・在宅医療を支え、多職種と連携・協働する人材を育成します。
- 地域で働くことに喜びと誇りを持つ人材**
地に愛着と誇りを持ち、地域のさまざまな医療分野で人びとの命と健康を支えることに喜びを感じる人材を育成します。

大学院概要

入学定員／5名
修業年限／2年
※長期履修制度あり
学 位 ／修士（看護学）



マスコットキャラクター
「かんとりい☆」

Tottori College of Nursing Graduate School



教育の特色

育成する人材像，分野，コース

看護学の研究的背景を基盤に、日本・海外の如何にかかわらず、対象の属する文化・社会的背景と健康問題や健康に関する強みを理解した上で、それぞれの専門分野の視点からケアを構築する研究的視点を持つ実践看護者を養成します。

研究背景に沿った分野として、設置する専門分野は、「地域イノベーション看護」「地域志向臨床看護」の2分野です。

地域イノベーション看護

人々が住み慣れた地域での生活継続を支援するために、地域で暮らす際の健康の保持・増進および健康課題解決に向けたセルフケア能力向上、地域力の的確な判断を基に地域をエンパワメントする実践力、生活の安全・安心・健康確保のための有効な地域包括ケアのシステム構築を試行できる能力を備え、地域での暮らし・生活を支えつつ、地域を活性化させ、社会的に大きな変化をもたらす能動的・持続的イノベーションが起こせる人材を育成します。本分野は、【看護教育学】【地域包括ケア】【メンタルヘルスケア】の3コースに分かれます。

▶ 看護教育学

看護基礎教育および看護継続教育における教育方法、看護職の教育・発達、看護倫理などの基礎看護学領域に関する研究をテーマとして設定します。

▶ 地域包括ケア

地域で暮らす人々の生命だけではなく、生活者として包括的に人を見る力が求められます。在宅ケアの様々な研究をテーマとして設定します。

▶ メンタルヘルスケア

狭義の精神看護学領域において対象となる人、およびその援助者、その両者への援助方法や教育方法について精神保健看護学に関する研究をテーマとして設定します。

地域志向臨床看護

臨床の現場で、対象者が地域で生活することを志向し、科学的エビデンスに基づいて行う看護支援に関する研究を行うことができる看護専門職を養成します。本分野は【母性小児看護】【療養支援看護】【感染管理看護】【看護生体】の4コースに分かれます。

▶ 母性小児看護

性と生殖の健康や倫理・権利に関する研究、広く母子やその家族に関する看護ケアの介入・評価に関する研究および助産学の視点からの助産実践研究・助産師教育に関するものを研究テーマとして設定します。

▶ 療養支援看護

がん患者をはじめとした療養上の看護支援を必要とする健康上の問題を持つ人々のQOLを高めることを志向した健康回復、健康維持への援助についての研究テーマを設定します。

▶ 感染管理看護

感染症看護や感染管理看護に関する研究をテーマとします。新興感染症・再興感染症・日和見感染症対策に関する院内の状況把握や対策の効果、地域の施策や教育についてもテーマ設定可能です。

▶ 看護生体

得られた知見を看護実践や健康増進に活用することを目的とする、看護の視点に立った人体の構造・機能に関する研究をテーマとします。解剖学教育、解剖生理学（形態機能学）教育に関する研究も行うことができます。

学ぶ時間を大切にしている人がここにいます



研究科長
荒川 満枝 教授

看護職のみなさまには、日々の看護の業務の中で、地域や対象の特性や看護職のあり様について、時間をかけて追究したいと感じることや、自身のキャリアアップについて考えることがあろうかと思います。本研究科は、みなさまの今ある能力に、学術的な学びと研究活動の機会を提供し、地域の看護力の向上に貢献したいと、2019年4月開設され、2021年3月に初めての修了生を輩出し、同4月に能力あふれる教授陣の実践や研究力を活かしたコース編成に改正しました。本研究科は、働きながら学んでいる学生さんばかりですが、各授業やゼミではとても活発な討議や共感、課題の明確化が展開されていて、学生も教授陣も学術的知見を前にワクワクした様子があり、学ぶ喜びの存在を感じます。ぜひ、一緒に学びましょう。

教育課程表

看護学の研究的視点を持ちながら地域に浸透して自身の専門性を活かしたケアを構築し、地域とともに歩む実践看護者の養成をめざし、「基盤科目」「専門科目」「特別研究科目」と段階を踏んで学びます。その具体的な科目は以下の通りです。

基盤科目	看護理論 看護倫理学特論 看護病態学特論 看護コンサルテーション論	看護研究方法論 保健統計学特論 がん看護論 看護職発達支援特論	Glocal Nursing Field Work 形態機能学特論 地域イノベーション看護論 国際看護特論
専門科目	看護教育学特論Ⅰ 地域包括ケア特論Ⅱ 母性・小児看護学特論Ⅰ 療養支援看護特論Ⅱ 看護生体特論Ⅰ	看護教育学特論Ⅱ 地域精神看護特論Ⅰ 母性・小児看護学特論Ⅱ 感染管理看護特論Ⅰ 看護生体特論Ⅱ	地域包括ケア特論Ⅰ 地域精神看護特論Ⅱ 療養支援看護特論Ⅰ 感染管理看護特論Ⅱ
特別研究科目	特別研究		

修了後に想定する進路

- (1) 各種医療機関または保健・福祉施設等において、最新のケア技術やエビデンスに基づいて優れた看護を実践する看護職者および看護管理者。
- (2) 各種医療機関または保健・福祉施設等において、ケア環境の改善や看護教育および看護研究指導に携わる看護職者および看護管理者。
- (3) 行政の場において、現行の法律・制度・政策を看護の視点で分析し、国民のQOL向上に向けた保健・医療・福祉政策に提言できる看護職者。
- (4) 看護系大学・専門学校等の教育機関において、看護職者を育てる教育研究者。

大学院生メッセージ

充実した時間の中で 学びと実践がつながる実感

緩和ケア認定看護師として、鳥取市立病院に勤務しながら大学院生として2年間学びました。臨床でさまざまな方に携わる中で、また認定看護師としてスタッフへの研修や指導を行う中で、もっと幅広い視野で物事をとらえ、根拠に基づいた言語化ができるようになりたいと考えたことが進学の原因でした。先生や仲間たちとひとつのテーマについて深く考え、ディスカッションを重ねる時間はとても楽しく充実しており、働きながら学ぶことで、日々、学びと実践が結びついていく実感がありました。人生の最終段階にある方たちを支援する看護職を増やしたい、そんな思いが深まっています。



山根 綾香さん
(2021年度修了生)